

第16回日本気象学会夏期特別セミナー（若手会夏の学校）の報告

第16回夏の学校実行委員会*

第16回日本気象学会夏期特別セミナー（若手会夏の学校）を、2004年7月23日（金）から25日（日）までの2泊3日の日程で開催いたしましたのでご報告します。本年は東北大学が主幹を務め、宮城県桃生郡鳴瀬町野蒜にあるパイラ松島ユースホテルにて開催されました。参加者は110名に及び、特に修士1年の学生が参加者全体の6割を占め、例年に比べて参加者の年齢層は若干低いという傾向がありました。

本セミナーでは、講師の先生方による招待講演、参加者による一般講演およびポスターセッションを行いました。以下には期間中に行われた講演を記します。

・招待講演（90分/1人：5件）

中澤高清（東北大学大学院理学研究科教授）

「温室効果気体の変動と循環」

花輪英雄（東北大学大学院理学研究科教授）

「海と気候とArgo計画」

近藤純正（東北大学名誉教授）

「歴史の中の気象学—地表面熱収支, 新ポテンシャル蒸発量」

岩崎俊樹（東北大学大学院理学研究科教授）

「数値モデルの嘘と誠」

浅野正二（東北大学大学院理学研究科教授）

「下層雲の微物理特性と放射特性：JACCS観測からの知見と課題」

・一般講演（20分/1人：8件, 30分/1人：2件, 合計10件）

吉田 聡（海洋研究開発機構地球シミュレータセンター）

「日本付近で発達した爆弾低気圧の構造と発達過程」

松島 大（東北大学大学院理学研究科）

「陸面過程とリモートセンシングあれこれ」

大竹秀明（北海道大学大学院地球環境科学研究科）
「北海道西岸で太く発達する筋雲の研究—風上大規模山地に注目した数値実験—」

石崎紀子（筑波大学大学院生命環境科学研究科）
「インドシナ半島とベンガル湾における加熱の季節進行」

他6件

・ポスターセッション（90分：15件）

招待講演では、気象および気候研究の第一線で活躍されている東北大学の4名の先生方と東北大学名誉教授となられてからも益々活躍されている近藤純正先生から、大変興味深いご講演を頂きました。

中澤高清教授には、温室効果気体研究の歴史と、それぞれの気体の変動と循環に関する現状の知見と問題点、更に将来の課題についてお話を頂きました。花輪英雄教授には、気候の形成や変動における海の役割と世界中の海をくまなく、且つ、リアルタイムで監視するArgo計画について紹介して頂きました。近藤純正教授には、夏の学校開催地である宮城県野蒜の気象学からみた歴史に始まり、地表面の熱収支における基本的な性質及び、気候パラメータとしての新ポテンシャル蒸発量の有用性についてお話を頂きました。岩崎俊樹教授には、モデル開発の王道はあらゆる経験法則を排除し、大気を支配する物理法則を忠実に表現する究極の数値モデル、すなわち大統一モデルに至る道であり、その王道を歩む上での問題点や歩み方についてお話し下さいました。浅野正二教授には、雲が太陽放射をどれほど吸収するかをめぐる論争（異常吸収問題）が決着するまでについてお話を頂きました。また後半では、気候モデルによる再現が困難な下層雲の雲力学・放射過程に焦点をあて、東北大・岩崎教授のグループと共同で進めているヤマセ雲の研究について紹介して頂きました。参加者の皆さんは熱心に講演に耳を傾けて、質問も活発にあげていました。

* 宮崎和幸=実行委員長, 八代 尚, 沢田雅洋, 宇野幸代, 佐藤可織, 大井 淳, 梅澤 拓, 松本康志, 小玉知央, 宮川 学, 向田昌登, 濱田 尚(東北大学大学院理学研究科).

今回はさまざまな分野の先生をお呼びしたことで、いつもは触れることの少ないトピックもじっくり聴く機会となり、気象学における知見を一層広める手助けになったのではないかと思います。

まだ研究テーマの決まっていない修士課程の学生が大多数であった為か、講演発表者は例年に比べかなり少なくなりましたが、むしろこの注目が集まる機会を逃さず熱心に自分の研究をアピールする発表者にあふれ、参加者はどの発表も余すところ無く聴くことが出来て、口頭発表、ポスター発表共に密度の高い議論が繰り広げられていたと思います。

また、参加者同士の交流を深めるイベントとして、研究室紹介や立食パーティーなどを実施しました。初日の懇親会では研究室紹介とクイズ大会を行い、研究室の雰囲気を紹介する映像を放映したり研究室を題材

にした漫才を行うなど個性的な紹介が続き、参加者同士がお互いを知る良い機会となりました。二日目の懇親会では、参加者の投票によるベストポスター賞の表彰および近藤純正先生によるスライドショー「雪と水の美」上映会を行いました。終始和やかな雰囲気の中、参加者同士の交流を深められた事と思います。

2005年の日本気象学会夏期特別セミナーは、筑波大学へと引き継ぐことになりました。今後とも、参加者と運営側の双方にとって有意義な夏の学校が開催され続けますことを願っております。最後に、夏の学校の運営に御協力頂いた皆様、このような企画の機会を与えて下さった日本気象学会関係者および開催に際して援助を頂きました日本気象学会講演企画委員会の皆様に厚く御礼申し上げます。

2005年度総会について

常任理事会

前回の2004年度総会で定款が一部改定され、会員種別の在り方が変わりました。すなわち、個人の会員は、通常会員と特別会員に分け、前者は法人の社員として総会における議決権や役員の選挙権の権利と義務を有しますが、後者はそれらを有しません。ただし、個人の各会員は、自分の選択に基づき通常会員か特別会員かのいずれの会員になるか自由意思で選択でき、年度の変わり目等にはその種別変更も可能です。現時点では、約800名が通常会員を、約3000名が特別会員を選択しています。

このような新しい会員制度の下での最初の総会が次回2005年度総会ということになります。従いまして、通常会員である会員には、総会での議決権を行使して頂くこととなりますので、「天気4月号」に掲載されます総会資料を慎重にご検討の上、総会に参加してご意見など頂ければ幸いです。

具体的には、天気4月号の送付に合わせて通常会員

に別途「総会参加票」をお送りします。通常会員は、全員、総会への欠欠に関係なく各議題に対する意思の表明または欠席する場合の被委任者を、「総会参加票」により学会事務局に提出願います。なお、総会に出席した場合は総会における意思表示が優先されます。この点、何卒、通常会員の方々には、ご協力をお願い申し上げます。

特別会員は、議決権の行使ということでは、総会に参加する義務はありません。そういう事情で、総会参加票ハガキの郵送は致しませんが、学会の在り方には常に関心をもって頂きたいということから、総会会場に出席し、審議の過程を見て頂くことは大いに歓迎致します。

以上、次回の総会を開催するにあたって、変更点など簡略ですがご案内申し上げます。重ねてご理解とご協力をお願い申し上げます。